

税金に感謝

吉川市立吉川中学校 3年 北野 紗英

「こんなに綺麗な学校でラッキー！」令和二年四月、吉川市立吉川中学校が開校したときに思った。私はこの吉川中学校の第一期卒業生になる。開放的で近代的な建物は人に優しいユニバーサルデザイン、校舎は地域の防災拠点としての機能も備えている。図書室とPC室が一体となったメディアセンターには驚いた。将来的にICT教育の実現をするための設備が整っている。当たり前だが、机・イス・パソコン・本などすべての備品が新品だ。新しい中学校の開校に合わせ、歩道、横断歩道、街灯などが設置されるなど、学校周辺の環境も整備された。すべては私たちの安全を守るために。また、吉川市では昨年からは市内すべての小中学校にエアコンが設置され、暑い夏でも快適に授業が受けられるようになった。これらの費用には、教育費として多くの税金が使われている。もし税金がなかったら学校に通うために、一人ひとり高額な費用がかかってしまうに違いない。

税金は大人が納めるものだと思っていたが、私が買い物をした時に支払っている消費税も税金のひとつなのだと気が付いた。憲法第三十条では納税の義務が定められている。「消費税が十パーセントも取られて高いなあ。」とつい思ってしまったが、納税とは納めるものであって取られるものではないのだと思った。

日本では納税の義務がある一方、主権は国民にあると憲法で定められている。つまり、国民から集めた税金の使い道も主権者である国民が決めることができるということだ。実際には税金の使い道は議員が決めているが、その議員を選挙で選んでいるのは国民である。つまり、自分たちの代表者である議員を選ぶことによって間接的に私たちも税金の使い道について関わっているということになる。選挙や政治は難しい問題だと思っていたが、本当は自分たちの生活に密着した身近なものなのだ。私も、三年後には十八歳になり選挙権が与えられる。ぜひ選挙に行き、私たちが納めた税金を正しく使ってくれる人を選びたい。

税と暮らしの関わりを知り、納税の大切さを知った。限りある税金を有効活用することによってみんなが健康で安全な暮らしができ、日々の生活に困る人がいなくなるような社会になって欲しい。私たちの税金がどのように使われているのかについて、今のうちからもっと関心を持っていきたいと思った。先人が納めてくれた税金のおかげで日々生活ができることに感謝し、今は一生懸命勉強を頑張って、将来しっかり働いて納税できる大人になりたいと開校したばかりの校舎を眺めながら、ふと思った。